

職員オススメ本 1月



「ちとせ」 高野 知宙／著 祥伝社

疱瘡を患い、徐々に目が見えなくなっていくちとせは、三味線で生計をたてるため、丹後の漁村から京都にやってきた。音に惚れ込み弟子入りしたお菊さんのもとで修行を続けるちとせは、自分の音、自分の表現を探し、様々な人々と触れあい成長していく。京都文学賞中高生部門最優秀賞を受賞した17歳の作者による、瑞々しい時代小説です。



「その本は」 又吉 直樹・ヨシタケ シンスケ／著 ポプラ社

王様は二人の男を城に呼んだ。その理由は、年を取ってほとんど目が見えなくなった王様に代わり、世界中の『めずらしい本』を知っている者を探し出して、その者から本についての話を聞き、教えてほしいというものだった。二人は世界中を旅するためのお金をもらい旅に出た。

そして一年後、二人は旅から戻り一晩ずつ交代に話を始める。

お笑い芸人と大人気絵本作家が描くクスツと笑えて、時々感動する一冊です。



「お銀ちゃんの明治船来たべもの帖」

柊 サナカ／著 PHP研究所

舞台は明治三十五年の東京牛込。

女子が写真を学ぶ学校として設立された『女子写真伝習所』に通う銀・基美・シズの三人娘はある日、【写真よろづ相談所】を開設する。というのも、新宿高野に「バナナ」という南国の果物が輸入されたと聞きつけるものの、三人のお小遣いを合わせても手の届かない二円もする高級品。どうしても諦めきれない銀は、相談所でお金を稼ごうとするのだが…。

写真師見習いのデコボコ三人娘たちが繰り広げる、日常ミステリーです。